

**総評（コメント）（協働事業選考委員会志村委員長）**

市民の税金を使って協働事業を進めていく。それにふさわしい事業かを見極めていかないと、税金を預かる身としては責任が重要である。手探りの苦労があったり、悩みがあったり、一つ一つが全く無駄なものがない。それぞれの取組みは、今、現実社会で起きている問題であり、皆で考えなければいけない。本来であれば、市民全員が聞かなければいけない話だと思う。提出された報告書よりも、今日、この場で聞いた生の声の中にある叫びが大事である。市民が共有しなければいけない内容が今日のこの報告の中にある。今日の生の声を市民が共有できる場があればいいと思う。行政だけでも出来ないし、市民だけでも出来ない。協働だからこそ出来た苦労や経験を市民に還元することが大事である。今年、事業が最終の皆さんにとっては、それが色々な形で次につながるし、新たな展開を考えていく余地はあると思う。今年も新たな募集をするが、皆で手を取り合っていまちを作っていくことにつなげられること、この仕組みを作っていくことが大事である。それに気付かせていただいた。